

行政視察報告書

文教厚生建設委員会
委員長 板橋 真弓

日 程 令和7年10月21日(火)～令和7年10月22日(水)

視 察 市 富山県南砺市、石川県野々市市

出席委員 板橋 真弓 岡本 喜好
梅本 知江 阪本 久代
堀内 和久 垣内 憲一
岡本 安弘 南出 昌彦
土井裕美子

当 局 教育委員会事務局 教育部長 岡 一行

議会事務局 議事調査係長 中井 ユリ

報 告 書

文教厚生建設委員会は、令和7年10月21日(火)に富山県南砺市において義務教育学校について、また、10月22日(水)に石川県野々市市において子育てステーションについて視察研修を行いました。

以下その概要について報告します。

記

1. 富山県南砺市	市制施行	平成16年11月1日
	人 口	45,706人
	世 帯 数	17,465戸
		(令和7年3月末)
	面 積	668.64 km ²

南砺市は、富山県の南西部に位置し、北部は砺波市と小矢部市、東部は富山市、西部は石川県金沢市と白山市、南部は1,000mから1,800m級の山岳を経て岐阜県飛騨市や白川村と隣接している。市域には、中山間地域が多く、少子高齢化や人口減少が進行している。児童生徒数の減少に対応するため、学校再編や義務教育学校の導入など、持続可能な教育環境づくりに取り組んでいる。

視察事項

【義務教育学校について】

- ・南砺市立つばき学舎（令和3年開校）
- ・利賀学舎（令和6年開校）

(1) 経緯

南砺市では、学校再編および義務教育学校化を進めるにあたり、行政主導での決定とならないよう、地域の理解と合意形成を重視した取り組みを行った。その一環として、保護者や地域住民、学校関係者等で構成する協議会（検討会・懇談会等）を設置し、学校の在り方について段階的に協議を重ねてきた。

協議会では、児童生徒数の推移や将来予測、教育環境の現状と課題を共有するとともに、小中一貫教育や義務教育学校制度の特徴について説明が行われた。

また、通学環境、学校規模、地域との関わり、学校統合への不安など、地域からの意見や要望を丁寧に聴取し、検討に反映させる取り組みが進められた。

こうした協議と意見交換を重ねた結果、教育の質の維持・向上と地域に根ざ

した学校づくりの観点から、南砺市立つばき学舎および利賀学舎を義務教育学校として設置する方向性について、一定の理解と合意が形成され、制度移行に至った。

(2) 成果

○教員の働き方改善

- ・中学校(教科担任制)の教員が小学校の学級支援に入ることや、チーム担任制の導入により、小学校教諭の業務負担が軽減され、単学級の維持が可能となった。
- ・5 制限を採用することで、部活動指導に充てる時間を確保し、時間外勤務の削減につなげている。
- ・チーム担任制により、教員間の連携が強化され、フォロー体制の確立や児童生徒の異変の早期発見が可能となり、教員の離職防止にも寄与している。

○児童生徒に対する教育の向上

- ・支援教員や教科担任による指導により、専門性を活かしたきめ細やかな教育が実現。
- ・6 制限を廃止し、夏休みを 20 日間に短縮することで授業時間を確保し、放課後の時間を部活動や地域と連携した教育活動に充てることができている。
- ・9 年間を通して授業時間が約 400 時間増加し、特に外国語教育の充実が図られている。
- ・「自学の時間」を新設し、主体的に学ぶ力の教育が進んでいる。

○保護者の負担軽減

- ・夏休み短縮により、長期休業中の家庭での生活・学習管理の負担を軽減。

(3) 課題

- ・教科担任制やチーム担任制を安定的に運用するため、教員配置や人材確保の工夫が必要。
- ・放課後活動や地域教育の充実に伴い、外部人材との連携体制や安全管理の一層の充実が必要。

(4) まとめ

南砺市における学校統合や義務教育学校化では、その地域の、その時の当事者(若い世代)が統合を決めるという方針のもと児童や保護者に決定権を委ね、教育委員会・行政が後押しすることで、変化への摩擦を最小限に抑えながらス

ムーズな移行を実現していることが確認できた。統合に向けて約5年間の協議期間を設け、課題の克服や相互理解を図るとともに、統合のメリットを明確化し、児童生徒・保護者・教職員にとって利益を享受できる施策が講じられている点は、人口減少下の教育環境整備における重要なモデルとして参考になった。今回の視察で得た知見を活かし、今後の教育施策の充実に向けた更なる議論を深めていきたい。

2. 石川県野々市市	市制施行	平成 23 年 11 月 11 日
	人 口	54,348 人
	世 帯 数	25,809 戸
		(令和 7 年 3 月末)
	面 積	13.56 km ²

野々市市は、石川県のほぼ中央に位置するコンパクトなまちで、全域が平坦地に広がり、北東部で金沢市、南西部で白山市に接している。交通・生活の利便性が高く、特に金沢市のベッドタウンとして多くの世帯が居住している。市では、子育て支援センターや保育園、病後児保育など多様な子育て支援施策を整備し、家庭と地域が一体となった子育て環境の充実を図っている。

視察事項

【ののいち子育てステーションについて】

- ・ こども家庭センター
- ・ 子育て支援センターみって
- ・ 中央保育園
- ・ 発達相談センター

(1) 経緯

ののいち子育てステーションは、老朽化に伴う中央保育園の大規模改修に合わせて、子育て支援センター菅原と発達相談センター機能を移転集約するほか、相談機能も併せ持つ複合施設とすることで、妊娠期から子育て期に渡り、子どもと子育て家庭を切れ目なく支援するための拠点として設置された。

(2) 特徴

- ・ こども家庭センター

子どもと家庭を総合的に支援する地域拠点として設置され、乳幼児から小中学生までの子育て相談や虐待防止支援、家庭支援、子育て情報の提供など多岐にわたるサービスを行っている。専門職員による相談体制を整え、子育ての安心・安全を確保するとともに、保育園や学校、医療機関、地域団体との連携を通じて、家庭と地域が一体となった子育て支援を推進している。また、病後児保育や一時預かり保育の調整など、柔軟な支援体制を備えており、子育て世帯の多様なニーズに対応できる点が特徴である。

- ・ 子育て支援センターみって

乳幼児期の子育て家庭を支援する地域拠点として設置され、子育て相談や遊

び・交流の場の提供、一時預かり保育、育児講座の実施、保育園や医療機関などとの地域連携を通じて、家庭と地域が一体となった子育て支援を行っており、保育士や看護師、保健師などの専門職が運営に携わり、病後児保育は専用施設で対応するなど利用者の安心・安全にも配慮している。

- ・中央保育園

乳幼児期の発達段階に応じたきめ細やかな保育を提供する施設で、安心・安全な家庭的雰囲気の中で子どもたちが健やかに成長できる環境を整えている。

- ・発達相談センター

発達につまづきのある児童やその保護者を支援する専門機関として設置され、幼児から成人まで、関係機関と連携して継続的にサポートを行っている。また、学校や保育園、医療機関、子育て支援センターとの連携を重視し、地域全体で子どもを支える体制を構築していることが特徴であり、保護者の安心感や教育・福祉サービスとの円滑な連携にも寄与している。

(3)まとめ

野々市市では、民間で対応できていない保育需要を廃園舎の利活用により行政が補完するとともに、役所機能を集約して関係部門間の連携を密にしている。園舎の改修にあたっては、利用者の特性に応じた動線や色調に配慮し、職員間の連携が円滑に行えるレイアウトを採用しており、県産材の使用など補助金制度も活用して効率的かつ持続可能な施設整備を実現している。

本市議会としても、こうした利活用や施設設計の工夫は参考になり、今後の政策立案に活かしていきたいと考える。

以上

なお、詳細については、議会事務局に資料を保管していますので、ご覧ください。